

全体総括

○計画期間：平成26年4月～令和2年3月（6年）

**1. 補完フォローアップの趣旨について**

第2期久慈市中心市街地活性化基本計画については、令和元年度が基本計画最終年度となっており、中心市街地の活性化に関する法律（平成10年法律第92号）に基づき令和2年5月に最終フォローアップに関する報告書を作成し、内閣府に報告したところである。しかしながら、主要事業である「複合施設整備事業」については、台風災害により工事進捗が遅延したため最終年度中に複合施設の運営開始ができず、当該事業に係る評価を最終フォローアップに入れ込むことができなかった。

このことについて、内閣府より複合施設運営開始後に補完調査をするようにとの指導があったことから、今回、当該事業による影響を含む形で評価すべく、補完フォローアップを実施することとした。

**2. 計画期間終了後の市街地の概況**

本市は、第2期久慈市中心市街地活性化基本計画に基づき、「山・里・海を丸ごと愉しめる、結いが支える賑わい・安心の街」をコンセプトに、「山・里・海の資源（たから）を愉しめる街」、「安全・安心な街」、「交流のある街」を基本方針として各種事業に取り組んできた。

平成30年6月には、「久慈駅前広場整備事業」による久慈駅前ロータリーを供用開始し、翌年4月には、イベント用途としても活用できる「いつくし広場」を供用開始した。令和2年7月には、「複合施設整備事業」による「情報交流センターYOMUNOSU」がオープンし、中心市街地の来街動機となる新たな施設が誕生した。

令和2年度は複合施設の運営開始により、中心市街地施設利用者数の大幅な増加を見込んでおり、実際に複合施設利用者数は目標値28,290人に対し、令和2年度実績値130,224人と4.6倍の利用者数を達成したが、やませ土風館の利用者数を見ると令和元年度745,534人に対し、令和2年度は595,013人と150,521人（約20%）減少しており、中心市街地施設全体でみると複合施設を整備したが、中心市街地施設利用者は減少するという結果となった。

これは令和2年以降に感染拡大が進んだ新型コロナウイルス感染症の影響により、不要不急の外出自粛が求められたこと、また、人々が人との接触を避けようとしたことにより来街者数が大きく減少したことによるものと推測される。

また、新型コロナウイルス感染症の影響により、中心市街地施設利用者数のほかにも、これまで継続して実施してきた、やませあきんど祭り、久慈春まつり、べっぴん夜市など、賑わいづくりのためのイベントについても、中止もしくは規模を縮小することとなり、令和元年度イベント参加者数と比較して、令和2年度のイベント参加者数は大きく減少した。

【中心市街地の状況に関する基礎的なデータ】

(基準日：毎年度1月1日)

(中心市街地 地区域)	平成25 年度 (計画前 年度)	平成26 年度 (1年目)	平成27 年度 (2年目)	平成28 年度 (3年目)	平成29 年度 (4年目)	平成30 年度 (5年目)	令和元 年度 (最終年度)	令和2 年度
人口	1,874人	1,832人	1,763人	1,682人	1,685人	1,628人	1,578人	1,561人
人口増減数		△42人	△69人	△81人	3人	△57人	△50人	△17人
自然増減数		△18人	△25人	△23人	△16人	△26人	△29人	△20人
社会増減数		△24人	△44人	△58人	19人	△31人	△21人	3人
転入者数		51人	59人	45人	49人	49人	42人	38人

3. 計画した事業等は予定どおり進捗・完了したか。また、中心市街地の活性化は図られたか。(個別指標ごとではなく中心市街地の状況を総合的に判断)

【進捗・完了状況】

①概ね順調に進捗・完了した

②順調に進捗したとはいえない

【活性化状況】

①かなり活性化が図られた

②若干の活性化が図られた

③活性化に至らなかった(計画策定時と変化なし)

④活性化に至らなかった(計画策定時より悪化)

4. 進捗状況及び活性化状況の詳細とその理由(2.における選択肢の理由)

基本計画に掲げた46事業のうち、完了あるいは実施中の事業は45事業、実施率は全体の約98%となっている。ソフト事業は概ね順調だったものの、ハード事業は災害の影響により3件で遅れが生じた。

令和2年7月に整備が遅れていた複合施設の運営が開始され、これにより令和2年度は中心市街地への来街者数の増加が見込まれ、中心市街地の活性化が期待されたが、新型コロナウイルス感染症の影響により令和2年度は令和元年度と比較して、中心市街地施設利用者数、やませ土風館の商品販売額、歩行者通行量及び中心市街地定住人口に係る社会増減数について全て減少し、中心市街地の賑わい、回遊性について後退する結果となった。

「やませ土風館・複合施設の利用者数」においては、目標値858,000人に対し、最終年度(令和元年度)が745,534人(達成率約87%)、令和2年度が725,237人(達成率約85%)と目標を達成することができなかった。しかしながら、新型コロナウイルス感染症の影響がなく、令和2年度にやませ土風館の利用者数が減少しなかったと仮定すると、「やませ土風館・複合施設の利用者数」は目標値を達成していたのではないかと推測される。

次に、やませ土風館の商品販売額においては、目標値512百万円に対し、最終年度(令和元年度)は549百万円(達成率約107%)と目標を達成していたが、令和2年度は449百万円(達成率約88%)となり、目標を達成することができなかった。

次に、歩行者通行量においては、目標値5,514人に対し、最終年度(令和元年度)では、3,418人(達成率約62%)、令和2年度は3,187人(達成率約58%)との結果となり、目標を達成することはできなかった。

最後に、「中心市街地定住人口に係る社会増減数」においては、目標値2人に対し、最終年度(令和元年度)が△145人、令和2年度は△156人との結果となり、目標を達成する

ことはできなかった。

## 5. 中心市街地活性化基本計画の取組等に対する中心市街地活性化協議会の意見

### 【活性化状況】

- ①かなり活性化が図られた
- ②若干の活性化が図られた
- ③活性化に至らなかった（計画策定時と変化なし）
- ④活性化に至らなかった（計画策定時より悪化）

平成26年に第2期久慈市中心市街地活性化基本計画が認定されて6年、「山・里・海を丸ごと愉しめる、結いが支える賑わい・安心の街」をコンセプトに、「山・里・海の資源（たから）を愉しめる街」、「安全・安心な街」、「交流のある街」を目指し、予定された事業は概ね実施された。

中でも、久慈駅前広場整備事業及び複合施設整備事業で、久慈駅前ロータリーや複合施設等が整備されたことにより、その誘客効果に期待する飲食店等の新規出店が増加傾向にあり、中心市街地に賑わいが生まれた。

しかしながら、令和2年度は新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響により、中心市街地への来街者が減少し、賑わい創出事業を行うにも大変困難な状況であった。新型コロナウイルス感染症の感染が続く中においては、イベント事業等の実施は難しいと思われるため、ワクチン接種率など新型コロナウイルス感染症収束の動向について注視し、新型コロナウイルス感染症の終息のタイミングにおいては、中心市街地が活性化できる事業が実施できるよう、官民一体となって取り組んでいく必要がある。

## 6. 今後の取組

今後は、新型コロナウイルス感染症の状況を注視しながら、複合施設整備事業「情報交流センターYOMUNOSU」、やませ土風館、商店会等と連携した新たなイベント事業等に取り組むなど、中心市街地活性化に向けて取り組んでいく。

また、今年度全線開通予定の青森県から宮城県までを結ぶ復興道路「三陸沿岸道路」についても、当市にインターチェンジが設置される所であり、これを来街機会の増加に結び付けるとともに、インバウンドに対応した各施設での連携イベントの開催や情報発信により、エリアの価値を高め、回遊性を向上させるよう取り組みを進めていく。

また、今後も進捗中の事業効果を検証することが重要であることから、目標達成状況に関する評価指標に基づく評価を行い、PDCAサイクルを継続していきたい。

(参考)

### 各目標の達成状況

目標	目標指標	基準値	目標値	(参考) 目標値の 80%	最新値		達成 状況
					(数値)	(年月)	
やませ土風館の集客力を高め、商店街への波及効果を促進する	やませ土風館・複合施設の利用者数	773,659人 (H24)	858,000人 (R1)	841,132 人	725,237 人	R3.3	C
	やませ土風館の商品販売額	504 百万円 (H24)	512 百万円 (R1)	510 百万円	449 百万円	R3.3	C
駅前地区の再生により中心市街地全体の回遊を達成する	歩行者・自転車通行量	5,508人 (H24)	5,514人 (R1)	5,513 人	3,187 人	R2.10	C
社会増減人口の減少に歯止めをかけ、定住性を向上させる	中心市街地定住人口に係る社会増減数	△74人 (H19～24)	+2人 (H26～R1)	△13 人	△156 人	R3.3	C

注) 達成状況欄 (注: 小文字の a、b1、b2、c は下線を引いて下さい)

A (計画した事業は概ね予定どおり進捗・完了。さらに、最新の実績でも目標値を超えることができた。)

a (計画した事業は予定どおり進捗・完了しなかった。一方、最新の実績では目標値を超えることができた。)

B1 (計画した事業は概ね予定どおり進捗・完了。また、最新の実績では目標値の80%を達成。)

B2 (計画した事業は概ね予定どおり進捗・完了。一方、最新の実績では目標値の80%には及ばず。)

b1 (計画した事業は予定どおり進捗・完了しなかった。一方、最新の実績では目標値の80%を達成。)

b2 (計画した事業は予定どおり進捗・完了しなかった。また、最新の実績では目標値の80%には及ばず。)

C (計画した事業は概ね予定どおり進捗・完了。一方、最新の実績では目標値および基準値にも及ばなかった。)

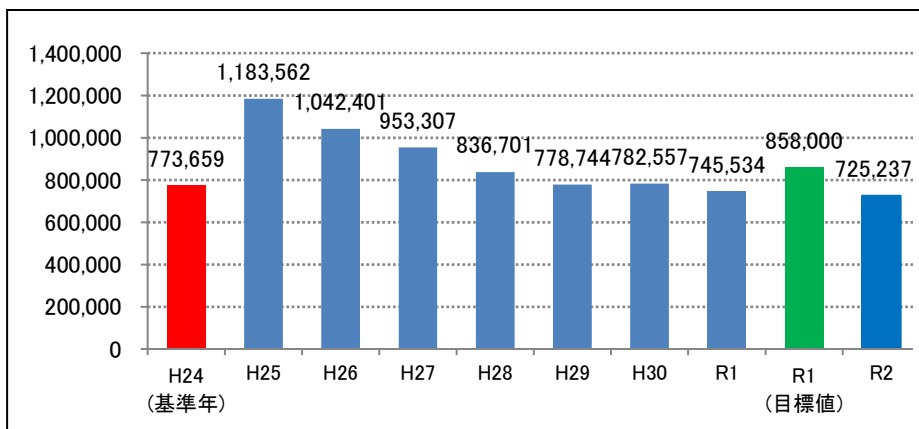
c (計画した事業は予定どおり進捗・完了しなかった。また、最新の実績では目標値および基準値にも及ばなかった。)

## 個別目標

「やませ土風館・複合施設の利用者数」

※目標設定の考え方認定基本計画 P. 53～P. 59 参照

### 1. 調査結果の推移



年	(人)
H24	773,659 (基準年値)
H25	1,183,562
H26	1,042,401
H27	953,307
H28	836,701
H29	778,744
H30	782,557
R1	745,534
	858,000 (目標値)
R2	725,237

※調査方法：レジ及びカウンターによる計測

※調査月：令和3年4月

※調査主体：施設の指定管理者

※調査対象：施設の利用者

### 2. 目標の達成状況【C】

「やませ土風館・複合施設の利用者数」については、目標値 858,000 人に対し、最終年度（令和元年度）で 745,534 人（やませ土風館利用者 745,534 人、複合施設利用者 0 人）と目標値に届かなかったが、複合施設の運営を開始した令和2年度においても利用者数が 725,237 人（やませ土風館利用者 595,013 人、複合施設利用者 130,224 人）となり、基準年値及び目標値を下回る結果となった。

理由としては、新型コロナウイルス感染症の感染拡大による不要不急の外出自粛等の影響により、来街者数が減少したことによるものと考えられる。

### 3. 目標達成に寄与する主要事業の計画終了後の状況（事業効果）

#### ①. 複合施設整備事業（久慈市）

事業実施期間	平成28年度～令和元年度【済】
事業概要	久慈駅前に図書館、地域交流センター及び観光交流センターの機能を有する複合施設を整備する。
国の支援措置名及び支援期間	社会資本整備総合交付金（都市再生整備計画事業（久慈街なか地区（第2期））（国土交通省）（平成28年度～平成30年度）
目標値・最新値及び達成状況	○地域交流センター利用者数 【目標値】28,290人【最新値】130,224人 目標達成 ○図書館利用者数 【目標値】18,468人【最新値】85,526人 目標達成
達成した（出来なかった）理由	当該事業は台風災害により整備完了が遅れたが、令和2年7月から供用を開始した。地域交流センター及び図書館において、最新値が目標値の約4.6倍になるなど大きな成果を上げており、当該施設の立地条件、サービス内容等が利用者ニーズに合ったものであったことが目標達成の理由と考えられる。

計画終了後の状況 (事業効果)	当該事業を実施したことにより、当該施設の利用者が中心市街地を訪れることになり、中心市街地の賑わい創出に寄与した。
事業の今後について	複合施設整備事業により整備された施設を活用して、イベント等各種ソフト事業の実施による、賑わいの創出を図っていく。

②. 観光交流センター魅力向上事業（民間）

事業実施期間	平成20年度～【実施中】
事業概要	観光交流センター「風の館」における定期イベントの開催及び観光PR活動を実施する。
国の支援措置名及び支援期間	中心市街地活性化ソフト事業（総務省）（平成22年度～令和元年度） 地方創生推進交付金（内閣府）（令和2年度～）
目標値・最新値及び達成状況	やませ土風館利用者の増加 【目標値】未設定 【最新値】2,800人
達成した（出来なかった）理由	—
計画終了後の状況 (事業効果)	観光客誘致活動やイベントの開催により、やませ土風館の利用者増につなげている。 ただし、新型コロナウイルス感染症の影響により、令和元年度のやませ土風館利用者数8,889人と比較して、令和2年度の利用者数は約69%減少した。
事業の今後について	引き続き事業を実施し、中心市街地の賑わいの創出と一層の活性化を促進していく。

③. あまちゃんハウス運営事業（久慈市）

事業実施期間	平成26年度～令和2年度【済】 [認定基本計画：平成26年度～]
事業概要	NHK連続テレビ小説「あまちゃん」関連グッズの展示や販売を行う。
国の支援措置名及び支援期間	中心市街地活性化ソフト事業（総務省）（平成22年度～令和元年度）
目標値・最新値及び達成状況	施設利用者数 【目標値】512人 【最新値】1,323人 目標達成
達成した（出来なかった）理由	撮影に使用された小道具等を設置したことから、あまちゃんファンの支持を受け、市の主要観光施設に成長したため。
計画終了後の状況 (事業効果)	中心市街地の新たな集客・拠点施設として街なかの賑わい創出に大きく寄与した。
事業の今後について	あまちゃんハウスは令和2年6月で閉館となったが、一部機能を情報交流センターYOMUNOSUに移し、引き続き、あまちゃんのコンテンツを活用した中心市街地の賑わい創出を図っていく。

④. みちのく潮風トレイル回遊事業（久慈市）

事業実施期間	平成26年度～【実施中】
事業概要	みちのく潮風トレイル枝線を活用し、中心市街地の通過によるウォークイベントを開催する。
国の支援措置名及び支援期間	中心市街地活性化ソフト事業（総務省）（平成26年度～平成30年度）

び支援期間	[認定基本計画：中心市街地活性化ソフト事業（総務省）（平成26年度～令和元年度）]
目標値・最新値及び達成状況	イベント参加者 【目標値】240人 【最新値】10人 目標未達成
達成した（出来なかった）理由	新型コロナウイルス感染症の感染拡大により全国的にイベント参加自粛が求められたことによるものと考えられる。
計画終了後の状況（事業効果）	ウォーキング者が中心市街地を回遊することで、中心市街地の活性化に寄与している。
事業の今後について	イベントの魅力を向上させながら事業を継続し、中心市街地の賑わいの創出を図っていく。

⑤. 十二支めぐりウォーキング事業（久慈市）【平成30年度追加】

事業実施期間	平成28年度～【実施中】
事業概要	久慈版ヘルスツーリズムの一環として実施し、中心市街地近郊にある各干支を祀った神社を巡るイベントを実施する。
国の支援措置名及び支援期間	地方創生推進交付金（内閣府）（平成28年度～）
目標値・最新値及び達成状況	イベント参加者 【目標値】未設定 【最新値】10人
達成した（出来なかった）理由	—
計画終了後の状況（事業効果）	イベントの出発がやませ土風館であるため、同施設の利用者増につながった。 ただし、新型コロナウイルス感染症の影響により、令和元年度のイベント参加者数95人と比較して、令和2年度の参加者数は約89%減少した。
事業の今後について	引き続き事業を実施し、中心市街地の賑わいの創出を図っていく。

⑥. 空き店舗対策チャレンジショップ事業（久慈商工会議所）

事業実施期間	平成14年度～【実施中】
事業概要	新規開業者等が空き店舗にチャレンジショップを開設する際、店舗賃借料の2/3を助成する。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
目標値・最新値及び達成状況	利用店舗数 【目標値】未設定 【最新値】2店
達成した（出来なかった）理由	—
計画終了後の状況（事業効果）	中心市街地に散見される空き店舗を解消し、商業担い手の育成に寄与している。
事業の今後について	引き続き、事業利用の促進により空き店舗の解消に努め、中心市街地の売上増を図っていく。

#### 4. 今後の対策

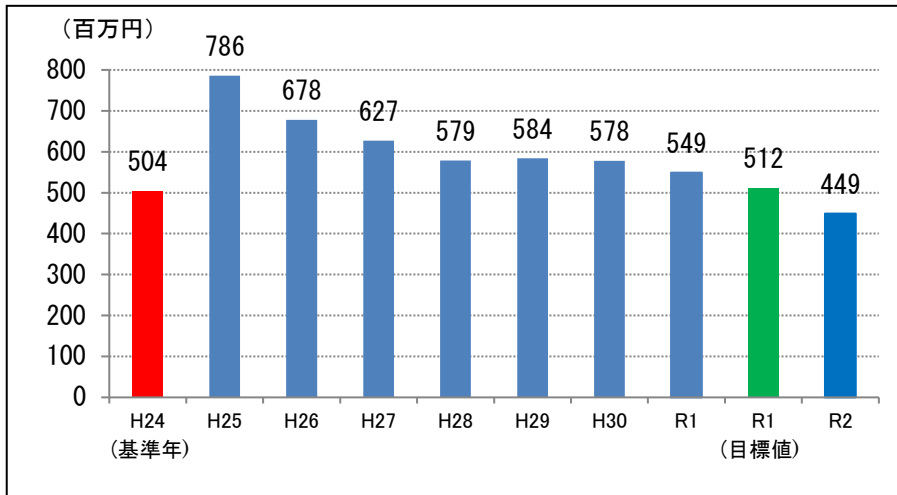
令和2年7月にオープンした複合施設整備事業「情報交流センターYOMUNOSU」を活用し、やませ土風館と連携したイベント事業等に取り組むほか、「観光交流センター魅力向上事業」及び「べっぴん夜市事業」等を引き続き実施していく。今後においても、関係機関と連携を図りながらイベントの実施ややませ土風館・複合施設の利用者数の向上に努めていくことで、中心市街地の回遊性向上、活性化に努めていく。

また、計画終了後も中心市街地活性化に向けて、計画事業によって発現した効果が持続しているのか検証するため、目標指標の計測を継続的に実施していく。



「やませ土風館の商品販売額」 ※目標設定の考え方基本計画P59～P62参照

1. 調査結果の推移



年	(百万円)
H24	504 (基準年値)
H25	786
H26	678
H27	627
H28	579
H29	584
H30	578
R1	549
	512 (目標値)
R2	449

※調査方法：やませ土風館内の各店舗の商品販売額を集計

※調査月：令和3年4月

※調査主体：(株)街の駅くじ

※調査対象：やませ土風館の商品販売額

2. 目標の達成状況【C】

「やませ土風館の商品販売額」においては、目標値 512 百万円に対して、最終年度（令和元年度）には、549 百万円（達成率約 107%）となり目標を達成したが、令和2年度は商品販売額が大きく減少し、基準年値及び目標値を下回る結果となった。

理由としては、新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響により、観光客等の利用が少なくなり施設利用者数が減少したことによるものと考えられる。

3. 目標達成に寄与する主要事業の計画終了後の状況（事業効果）

①. 空き店舗対策チャレンジショップ事業（久慈商工会議所）

事業実施期間	平成14年度～【実施中】※再掲
事業概要	新規開業者等が空き店舗にチャレンジショップを開設する際、店舗賃借料の2/3を助成する。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
目標値・最新値及び達成状況	利用店舗数 【目標値】未設定 【最新値】2店
達成した(出来なかった)理由	—
計画終了後の状況（事業効果）	中心市街地に散見される空き店舗を解消し、商業担い手の育成に寄与している。
事業の今後について	引き続き、事業利用の促進により空き店舗の解消に努め、中心市街地の売上増を図っていく。

②. 「街の駅ネットワーク」事業（久慈商工会議所、民間）

事業実施期間	平成12年度～【実施中】
--------	--------------

事業概要	市民のサロンの機能と情報発信機能を併せ持つ「街の駅」の整備と既存商店街へのネットワーク化として、休憩所の設置や案内人の配置等を行う。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
目標値・最新値及び達成状況	利用者数 【目標値】未設定 【最新値】未計測 久慈駅とやませ土風館の中間地点に位置し、観光客や市民の休憩場所として利用された。
達成した(出来なかった)理由	—
計画終了後の状況(事業効果)	駅前拠点とやませ土風館の中間地点に位置する休憩所は、イベント等での活用や休憩場所としても多く利用され、中心市街地の賑わい創出に寄与している。
事業の今後について	休憩所の設置等を継続し、中心市街地の活性化を図っていく。

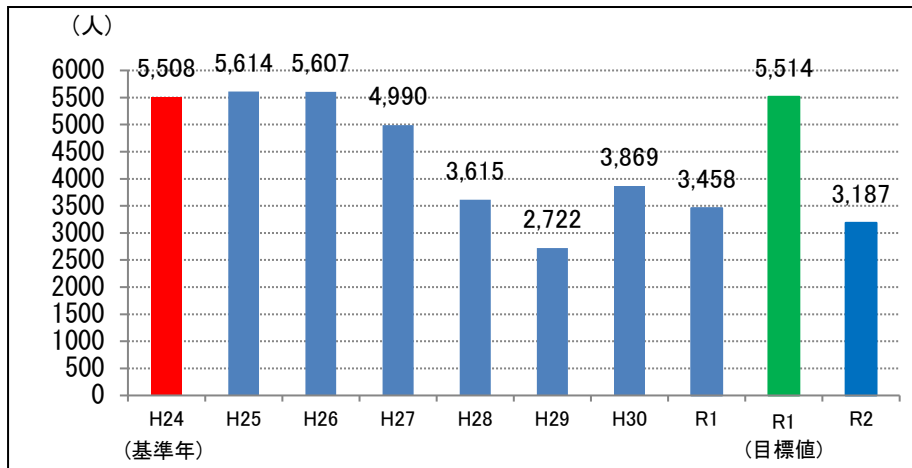
#### 4. 今後の対策

今後においても、あまちゃんや三陸復興国立公園を最大限に活かした取り組みを継続し、やませ土風館に観光客等呼び込むことで、年間商品販売額の向上に努める。

また、計画終了後も中心市街地活性化に向けて、計画事業によって発現した効果が持続しているのか検証するため、目標指標の計測を継続的に実施していく。

「歩行者・自転車通行量」※目標設定の考え方基本計画P62～P65参照

1. 調査結果の推移



年	(人)
H24	5,508 (基準年値)
H25	5,614
H26	5,607
H27	4,990
H28	3,615
H29	2,722
H30	3,869
R1	3,458
	5,514 (目標値)
R2	3,187

※調査方法：歩行者・自転車通行量調査

※調査月：令和2年10月

※調査主体：久慈商工会議所

※調査対象：歩行者及び自転車通行者、市内6地点の合計（平日・休日の平均）

2. 目標の達成状況【C】

目標指標である歩行者通行量については、平成28年台風10号等の相次ぐ台風被害の影響にて減少し、また、令和2年度においては新型コロナウイルス感染症感染拡大による不要不急の外出自粛等の影響により歩行者通行量が減少したものと考えられる。

令和2年度において基準値、目標値ともに届かなかったことから、達成状況はCとした。

3. 目標達成に寄与する主要事業の計画終了後の状況（事業効果）

①. 久慈駅前広場整備事業（久慈市）

事業実施期間	平成28年度～平成30年度【済】
事業概要	久慈駅前交通広場の拡大及びイベント広場の新設を行う。
国の支援措置名及び支援期間	社会資本整備総合交付金（都市再生整備計画事業（久慈街なか地区（第2期））（国土交通省）（平成28年度～平成29年度）
目標値・最新値及び達成状況	観光バス駐車台数 【目標値】365台 【最新値】166台 目標未達成
達成した（出来なかった）理由	新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響により、市を訪れる観光バスの台数が減少したため。
計画終了後の状況（事業効果）	いつくし広場のイベント利用や、駅前ロータリーへの観光バス発着により、中心市街地に賑わいに寄与した。
事業の今後について	いつくし広場（イベント広場）等の利用を促進し、更なる賑わいの創出を図る。

②. 路線バス運行事業（久慈市）

事業実施期間	平成20年度～【実施中】
事業概要	JRバス廃止路線への市民バスの運行を行う。
国の支援措置名及び	中心市街地活性化ソフト事業（総務省）（平成21年度～平成30年度） [認定基本計画：中心市街地活性化ソフト事業（総務省）（平成21年

び支援期間	度～令和元年度）]
目標値・最新値及び達成状況	年間利用者数 【目標値】未設定 【最新値】43,081人 来街者の交通・アクセス面での利便性が向上した。
達成した(出来なかった)理由	—
計画終了後の状況(事業効果)	来街者の交通・アクセス面での利便性向上に寄与している。 ただし、新型コロナウイルス感染症の影響により、令和元年度の年間利用者数47,579人と比較して、令和2年度の利用者数は約9%減少した。
事業の今後について	引き続き事業利用を促進し、来街者の交通・アクセス面での利便性向上を図っていく。

③. あまちゃんハウス運営事業（久慈市）

事業実施期間	平成26年度～令和2年度【済】 ※再掲 [認定基本計画：平成26年度～]
事業概要	NHK連続テレビ小説「あまちゃん」関連グッズの展示や販売を行う。
国の支援措置名及び支援期間	中心市街地活性化ソフト事業（総務省）（平成22年度～令和元年度）
目標値・最新値及び達成状況	施設利用者数 【目標値】512人 【最新値】1,323人 目標達成
達成した(出来なかった)理由	撮影に使用された小道具等を設置したことから、あまちゃんファンの支持を受け、市の主要観光施設に成長したため。
計画終了後の状況(事業効果)	中心市街地の新たな集客・拠点施設として街なかの賑わい創出に大きく寄与した。
事業の今後について	あまちゃんハウスは令和2年6月で閉館となったが、一部機能を情報交流センターYOMUNOSUに移し、引き続き、あまちゃんのコンテンツを活用した中心市街地の賑わい創出を図っていく。

④. べっぴん夜市事業（久慈商工会議所）【平成30年度追加】

事業実施期間	平成30年度～【実施中】
事業概要	やませ土風館、駅前拠点を主会場に、商業者等の出店による夜市イベントを実施する。
国の支援措置名及び支援期間	中心市街地活性化ソフト事業（総務省）（令和元年度） 地方創生推進交付金（内閣府）（令和2年度～）
目標値・最新値及び達成状況	来場者数 【目標値】未設定 【最新値】6,400人（4回） 多くの商業者等から出店いただけただことで、イベントの魅力が向上した。
達成した(出来なかった)理由	—
計画終了後の状況(事業効果)	中心市街地の新たな集客イベントとして、街なかの賑わい創出に大きく寄与した。 ただし、新型コロナウイルス感染症の影響により中止した回や、来場者が大きく減少した回もあり、令和元年度の来場者数8,800人と比較して、令和2年度の来場者数は約27%減少した。

事業の今後について

引き続き事業を実施し、中心市街地の賑わい創出を図っていく。

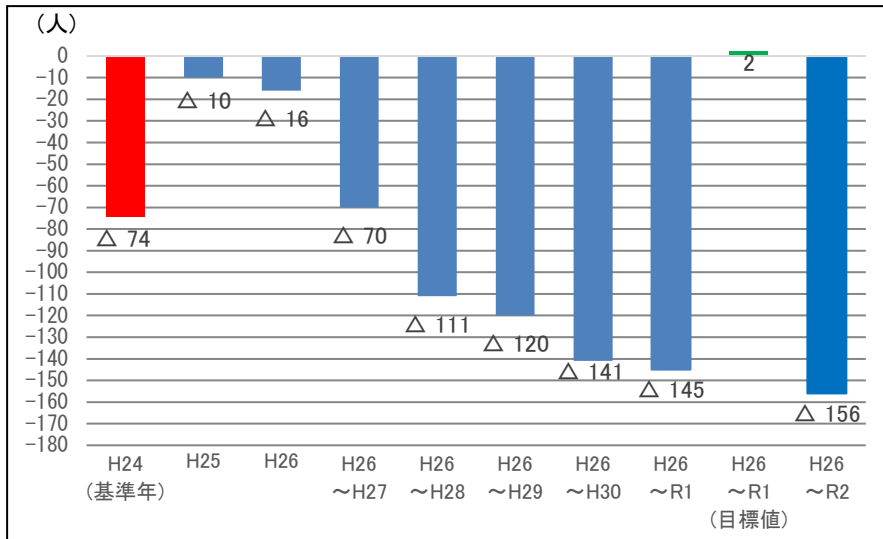
#### 4. 今後の対策

今後は、「久慈駅前広場整備事業」及び「複合施設整備事業」の事業効果を向上させるための取り組みや、商店会連合会が行う空き店舗を利用した交流スペースの活用を促進し、引き続き中心市街地の回遊性の向上に向けて取り組んでいく。

また、計画終了後も中心市街地活性化に向けて、計画事業によって発現した効果が持続しているのか検証するため、目標指標の計測を継続的に実施していく。

「中心市街地定住人口に係る社会増減数」※目標設定の考え方基本計画P65～P69参照

1. 調査結果の推移



年	(人)
H19~H24	Δ74 (基準年値)
H25	Δ10
H26	Δ16
H26~H27	Δ70
H26~H28	Δ111
H26~H29	Δ120
H26~H30	Δ141
H26~R1	Δ145
	+2 (目標値)
H26~R2	Δ156

※調査方法：区域内人口に係る自然増減数を把握し、社会増減数を算出

※調査月：令和3年3月末時点

※調査主体：久慈市

※調査対象：中心市街地内居住者

2. 目標の達成状況【C】

目標指標である中心市街地定住人口に係る社会増減数については、平成28年台風10号被災により大きく数値を減らし、また、その後においても回復の兆しは見られず、令和2年度においても基準値、目標値ともに届かず、達成状況はCとした。

3. 目標達成に寄与する主要事業の計画終了後の状況（事業効果）

①. 街なか空き家バンク事業（久慈市、民間）

事業実施期間	平成26年度～【実施中】
事業概要	中心市街地内にあるアパートや借家の情報を収集し、それぞれの物件の特徴について広く情報を提供する。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし [認定基本計画：中心市街地活性化ソフト事業（総務省）（平成26年度～令和元年度）]
目標値・最新値及び達成状況	【目標値】32人 【最新値】0人 目標未達成
達成した（出来なかった）理由	利用者のニーズに合った空き家が登録されておらず、利用が低調に終わった。
計画終了後の状況（事業効果）	Webなどで情報提供を行い、中心市街地内の物件の選択を促し、定住人口の確保に寄与している。
事業の今後について	空き家登録数の増及び周知徹底に努め、事業活用を促進する。

4. 今後の対策

今後も、「街なか空き家バンク事業」を推進していくほか、「オンライン移住相談会事業」など移住定住につながる事業と連携を図りながら、中心市街地定住人口に係る社会増

に向け取り組んでいく。

また、計画終了後も中心市街地活性化に向けて、計画事業によって発現した効果が持続しているのか検証するため、目標指標の計測を継続的に実施していく。